

## 抗アレルギー剤の分析 2 Anti allergy drugs

抗アレルギー剤には塩基性化合物が多く、HPLC 分析を行う際には、しばしばピークのテーリングが起きます。

そこで今回、抗アレルギー剤であるイブジラスト、オキサトミド、シプロヘプタジン、ケトチフェン、クレマスチン、テルフェナジンおよびロラタジンの一斉分析を行ないました。移動相には一般的なカラムではピークテーリングの起こりやすいアセトニトリルを移動相に用いていますが、**L-column2 ODS**ではほとんどテーリングがなく、分析が可能です。

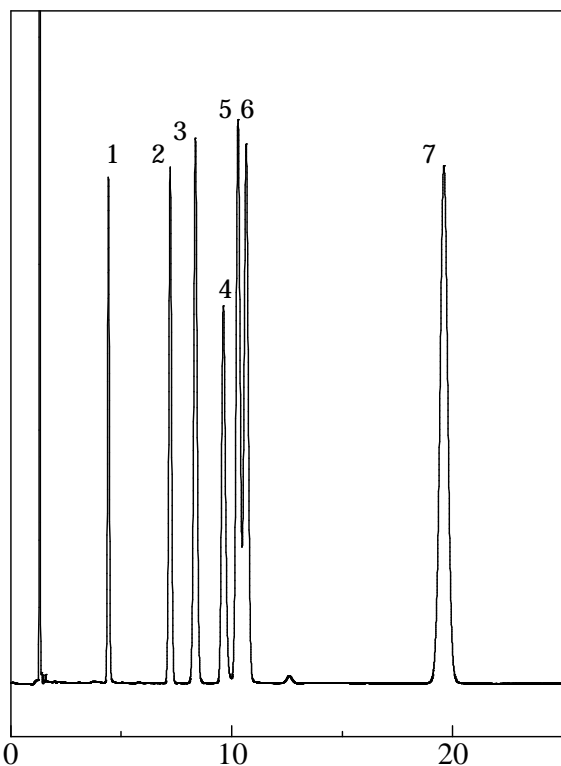
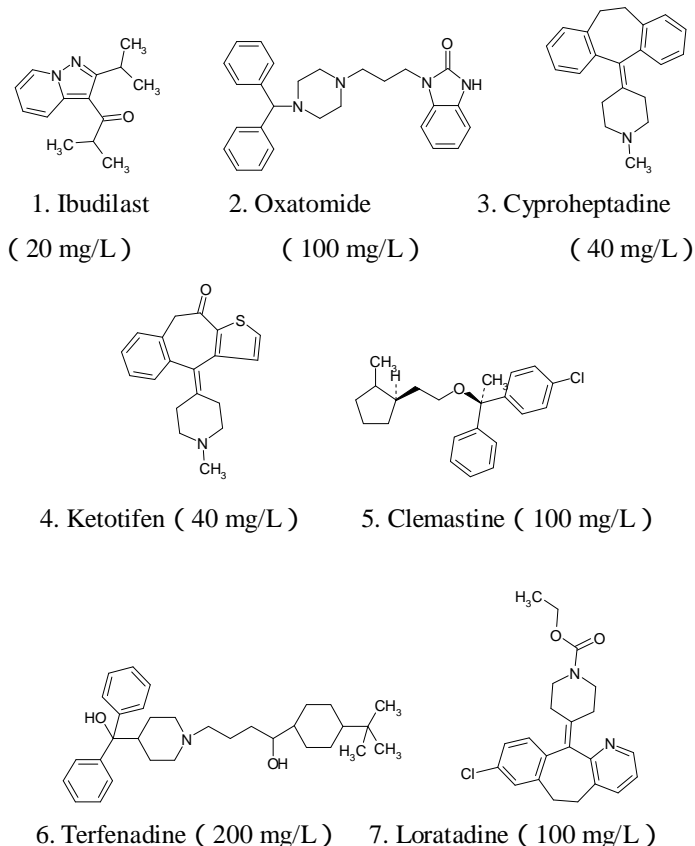


Fig. Chromatogram of Anti allergy drugs



### 【Analytical conditions】

Column	: L-column2 ODS ( 5 μm, 12 nm ) 4.6 × 150 mm
Mobile phase	: CH <sub>3</sub> CN/25 mM Phosphate buffer pH7.0 ( 55/45 )
Flow rate	: 1 mL/min
Temperature	: 40
Detection	: UV 220 nm
Injection volume	: 1 μL in CH <sub>3</sub> CN